

昭和二十六年九月

海外渡航者のエチケットについて

外務省管理局渡航課

海外渡航者のエチケットについて

外務省管理局渡航課

海外渡航者の外国での言動については、まゝ、外国人からとかくの風評を聞きますが、これは日本式の作法がそのまゝ外国で通用しないためでもあるのでせう。自分が気付かずにやつていることが、案外外国人にいやがられたり、また、奇異に思われたりするることがよくありますので、海外での御行動上、一応心得えて置かれたらと気付かれる事項を御参考迄に列举することにしました。先づ (一) 服装について、次に (二) 挨拶と名刺 (三) ホテル、(四) 宴会、(五) 飲酒、(六) その他の各事項について記することにしました。

一、服 装

(1) ぼさ／＼の頭髮不精鬚、汚れた下着、ほこりだらけの靴等は無作法この上もないことで、身体や、身につけるものを常に清潔にしておくことが身たしなみの第一歩です。洋服は常にブラッシをかけてほこりを落とし、頻繁にプレスをして何時も正しい折目をつけて置かねばなりません。帽子、靴等の手入れは勿論、下着類特にワイシャツやカラーは毎日取替えて清潔なものを身につけることを忘れてはなりません。汗

くさいのは一番禁物です。もし体臭の強い方は最近体臭止めのよい薬が簡単に手にはいります。ハンカチは礼服の時でも平服の時でも必ず純白の麻製を使用します。

- (2) 最近の傾向として、昔程服装についてやかましく言われなくなりましたから、儀式その他一定の服装を指定された場合以外は一般に簡素な服装をするようになりました。殊にこの傾向はアメリカで目立っているようです。しかしホテルや船中の食堂に入る場合、特に夕食の時はたとえ、旅行中でも必ずその場相当の服装を整える必要があります。また、いかに暑い時でも、半袖、開襟、ノーネクタイで人を訪問することは慎まねばなりません。

- (3) 日本人は上衣を取つた時、案外平気でズボン吊のまゝ人に応待しますが、これは外国では最も下等なことゝなつています。

また靴は自分の部屋以外では、いかなる場合でも脱いではならないものとされ、人前で靴紐、靴下に手をふれることさえ失礼なことゝされています。これに関連して、ホテル、列車の廊下・食堂等をスリッパで歩くことは絶対に慎むべきことで、スリッパは自室中に限り使用すべきものです。

二、挨拶と名刺

- (1) 握手をする時、無闇に叩頭することは著しく不体載で卑屈に見え、恰好もよくあ

りません。温顔をもつて相手の目を正視すれば充分です。手の出し方は男女間では男子は女子の出すのを待ち、同性間では上位者又は年長者が先に出すのを待つべきです。

(2) 初対面の挨拶には相手の名前をよく聞きとつて、会釈又は握手して、“How do you do Mr.” “I am very glad to meet you, Mr.” 等と相互に挨拶するのが礼儀です相手の名前がどうしても覚えられない時は非礼に亘らないように聞き返しても差支えありません。またむづかしい名前の時は「どう綴りますか」

..... How do you spell it? と綴字を尋ねるのも一法でしょう。

(3) 紹介されると日本式に直ぐ名刺を出す人がありますが、外国では名刺をいきなり出すことは注文取りとか、商用の場合ですから、左の場合を除いて使用しない方がよろしい。

(イ)、訪問する場合

(ロ)、名刺で招待する場合及びこれに返答する場合

(ハ)、招待の後で名刺を置いて謝意を表する場合、この場合本人が置きに行つた時は名刺の右肩を折る習慣がある

(ニ)、贈物に入れる場合、伝言の場合、人を簡単に紹介する場合

(ホ)、見舞、挨拶等で直接本人に会うことの出来ない場合、(御祝には P. F. 御悔には P. G. 御礼には P. H. 病氣見舞には P. D. R. 御別れには P. D. C. と名刺の左下に小文字記す)

(ヘ)、名刺の型は国によつて異なりますがアメリカでは縦一・八五吋、横三・二五吋が普通であつて、社交用には銅版刷が原則です

三、ホテル

(1) ホテルに入れば必ず帽子を取り (事務所、レストラン等も同じ)、入口で婦人に逢つた場合、必ず婦人を先にすること。

(2) エレヴェーターに乗るのには婦人を先とし、乗つたら扉に向つて立ち、婦人同乗の場合には帽子を取ること。

(3) 他人の部屋に立入る時は必ずノックし、自室に入つたら必ず扉を閉めることを忘れてはなりません。

(4) ホテルのロビーを用なくして徘徊し、又一団をなしてロビーにとぐるを巻き、又高声を放つたり高笑するようなことは慎しむべきことです。

(5) 洗面の場合、含嗽するのに大きな音を立てないようにすること、又汽車の中等、他人も使用する洗面所は、使用后、備付のタオル等で綺麗にして置くことを心掛け

ねばなりません、風呂（バス、タツプ）についても同様です。

(6) スリッパや寝衣又は浴衣掛けで自室の外へ出てはなりません、たとえ廊下を横切つて隣りの部室へ行く場合でも同様です。

(7) ホテルでは、食堂でも、ロビーでも、寢室でも、総てお互に静かにするのが作法であり、殊に夜更け迄高声に談論、放歌するときには厳に慎むべきことである、特に酒興に乗じて高歌、放吟することはよくあり勝ちな事ですから格別注意する必要があります。

四、宴 会

(1) 招待を受けた場合は折返し回答すること、又招待を受諾すれば必ず出席することとし、出席の危ぶまれる如き場合は予め缺席の旨通知する方が無難です。

(2) 正式晚餐には服装の指定があります、指定のない場合には先方に尋ねても差支ありません。

(3) 絶対に遅刻しないこと。

(4) 左の諸点に特に注意すること

(イ) ものを食べるときに音を立てないこと、殊に、スープ、珈琲等液体を飲む場合決して音を立てゝはなりません、そば、うどん類を食べる場合のように音を立て

て飲食しないように注意をすること

(四) ゲップは甚だ失礼であります

(ハ) 揚子は使わないこと

(ニ) 自分の手が届かない所にあるものを取る時には、隣りの人につつて貰うか、又は給仕人に命じて取らせること

(ホ) 大勢の場合、主客の辞去した後は主人のみに礼を述べて爾余は必要に応じ簡単に会釈するのみで辞去して差支ありません

五、飲 酒

(1) 酔態は絶体に人前に示してはなりません。外国人は酒の上のことだと言つても決して許しては呉れませんし、このため永年の親交が往々にして断絶されることもあります。

(2) 日本人はよく酒の無理強いをしますが、外国人は自分の飲める限度以上は決して飲みません、また日本人のように遠慮もしませんから、辞退されたら決してすゝめてはなりません。

六、その他

(1) 桐巻 旅行者の中ては屢々衣袋その他の貴重品を桐巻の中にしまい、これを取り出

すために前も構わず洋服を脱ぎ出す人もありますが醜態この上もないことです。

すために人前も構わず洋服を脱ぎ出す人もありますが醜態この上もないことです。

(2) 人を訪問する時は予め電話なり、手紙なりでアポイントメントを取付け、時間きつかり先方に着くのが礼です、宴会等によばれた時は大体定刻の十分前位に行くよう心掛けるべきです、また土曜の午後、日曜、祭日等は安息日ですから先方から特に招待されない限り、休日の訪問は是非遠慮すべきです。

また事務所等に人を訪問した時、要件を済ませたら長居せず直ぐ帰るのが礼儀です。

(3) 路上に痰・唾をはくことは甚だ下品の行為とされています。

(4) 煙草の吸がら、灰等は必ず灰皿に捨て、廊下、床上、絨緞等の上に投げ捨てることは慎まねばなりません。

以上概略気のついたまゝ列記しましたが、要するに「旅の恥はかき捨て」の觀念を捨て日本人の代表として恥づかしくない様、充分御言動に御注意ください。

